

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「子どもたちが共に学び合う地域活動」(宮城県白石市)

取組の概要や経緯

学校の授業では体験出来ない自然の家を活用した体験学習、学校や学年を超えた幅広い交流、収穫から調理までを一貫した食育体験などを通じて青少年の健全育成を図るとともに、子どもたちの自主性や創造性、集団における協調性を養うことを目的としている。



内容

小学校5・6年生を対象とした事業「わんぱく教室」を実施している。例年、キャンプでのテント泊や野外炊飯、食育体験、その他体験活動を計画し、通年に渡り事業を実施。なお、白石市ジュニアリーダー「キャロル」が指導者として小学生の指導にあたることによって、将来のジュニアリーダーの育成、子どもの青少年健全育成を図れるような活動を展開している。

ポイント

- ①小学生にとって、学校や学年を超えた交流を図る機会を創造した。
- ②ジュニア・リーダーは地域の子どもを引っ張る存在として、公民館事業への参加やイベントへの出店など、地域活動に積極的に参加した。



成果

・コロナの影響により引き続き活動を縮小せざるを得ない状況ではあったが、**感染対策を講じたうえで活動を行った**。また、小学生で他校児童と交流することで中学校生活へのスムーズな移行の一助となっている。

・コロナの影響により活動が制限されていたことにより、ジュニアリーダー活動への意欲が低下していたが、新メンバーも入会し、再び**自分たちができることを協議しながら**、活動を実施している。



今後の方向性

・コロナ禍の影響により地域の自然や伝統文化に触れる機会は大きく減っていたが、徐々に触れる機会が増えてきている。子どもたちを中心に、地域住民が地域を見つめなおす機会を提供し、事業を進めたい。